

## 内的宇宙の発見

第5期生 細川 晋吾

空を飛ぶこと——それは、人類が長い間夢見たことであった。そして、この夢に多くの研究者が挑戦しては失敗を重ねてきた。しかし、その中でライト兄弟は多くの実験を重ね、ついにこの人類の夢を叶えたのである。彼らの功績は大きい。100年以上も昔のこの快挙を真似しろと言われても、私には到底できないだろう。しかし、彼らの成功のプロセスに垣間見えるのは、人が空を飛ぶためにはどのような工夫が必要であるのかを仮説化し、その仮説が真であるかどうかを実証するという、我々がゼミ生活の中で常に心がけている Plan-Do-See のサイクルと変わらない。小野ゼミが生み出してきた三田祭論文や卒業論文は、このサイクルに沿って執筆された、どれもがマーケティング論で取り扱われたことのない、我々の生活に新たな息吹をもたらすものばかりである。しかし、そのような価値のあるものを生み出していくなかでは、先の見えない困難に直面することがある。覚悟を試される場面にも直面する。

しかし、そのような局面の打開こそが、人生の最大の勉強であると私は考えている。逆境に直面すると人はその心が弱ってしまうものである。小野ゼミの2年間では、逆境の大きさの程度こそあれ、常に乗り越えるべき壁があったように思う。それら1つ1つを乗り越えていこうとする時、私はどのような逆境に直面した時に自分の心の強さが失われてしまいやすいのか、どんな信念を持っていけばくじけずに頑張れるのかをいつの間にか客観的に考えるようになっていた。すなわち、己の心——著者はこれをその広さや奥の深さを意識して内的宇宙と見做している——の弱さを知りつつも、なんとかそれを補っていくための自分の哲学について考えることができるようになった。己の弱さを知ることは成長のための足がかりとなる大切なことであるように思う。

しかし、この原稿を書きながら思うことは、どんな人間も1人の力で生きていくことは不可能であり、他者との関わりなくして私の人生もあり得ないということである。小野ゼミには「辛い」とか「困難だ」という弱音を忘れさせてくれる心の支えとなるような人達がいた。学ぶことの楽しさを教えてくれる先生がいた。人は人に支えられながら活動している——人生に関するそんな当たり前のことが、実はいかにあ



「高校生のための体験講座」で熱弁を揮う著者（右端）

りがたいか、そしてどんなに尊いかということ  
を改めて考えさせられた。そして今、まさに私の  
2年間のゼミ生活を支えて下さった全ての人  
達に感謝の意を表したい。特にこの2年間、私  
のゼミ生活に彩りを加えてくれた小野ゼミ生の  
皆さん、命を支えてくれた(笑)家族の皆さん、  
そして厳しくも愛情を感じずにはいられないほ  
どのご指導をして下さった小野晃典先生に感謝  
の意を表したい。皆さんとの思い出や支えを思  
い出すたび、胸が熱くなる想いである。